

黄島

岩壁と溶岩トンネル

福江島の東にある三島のうち、最も大きく一番南に位置する黄島には、五島列島最大級の溶岩トンネルがあります。人口の少ない島の南側にあるこの溶岩トンネルは、地下約 130 メートルまで延びています。トンネル内部の壁面は明るく輝く黄鉄鉱の結晶で覆われており、上部には無数の火山性の鍾乳石が形成されています。この溶岩トンネルの中で発見された多種の生き物たちは、現在大学の研究者たちによって研究されており、研究者たちはこれらの生き物の一部が黄島の固有種かもしれないと考えています。黄島にある別の特徴的な地形は細ヶ岳です。細ヶ岳は島の西側にある高さ 25 メートルの円形の隆起で、長崎県の最低峰です。

火山岩は五島列島全域で住居を囲む塀の建設に利用されており、黄島でも同様です。ここでは、塀は黒くて丸い岩を粗く積み重ねて作られています。多くの場合、この塀の上にはたくさんの小さな石が載せてあり、さらに入り口部分の塀の上には半球状の花崗岩が置かれています。注目すべき例外は、船着場の近くにある、緻密に積み上げられた滑らかな石垣です。この石垣は、後に警察署としても利用された大きな役場を囲んでいました。今日、黄島には 50 人の島民が住んでおり、郵便局、そして仏像が並ぶ庭園と大きな墓地が併設された寺があります。島では宿泊施設が利用できます。